

ウィリアム・モリス

英国の風景とともにめぐるデザインの軌跡

2019年度-

ウィリアム・モリス（1834-1896）は19世紀のイギリスを代表する芸術家の一人として知られており、とりわけ彼が手掛けたデザインの数々は今なお世界中で愛され続けています。



ロンドン北東のウォルサムストウで生まれたモリスは、「エピングの森」で自然と戯れながら幼少期を過ごしました。オックスフォード大学を卒業後、ジェイン・バーデンと結婚。新婚の住まい「レッド・ハウス」で、仲間たちとともに室内装飾を手がけ、「モリス・マーシャル・フォークナー商会」（後のモリス商会）を設立します。晩年に至るまで、織物やテキスタイル、壁紙、本、タイルなどの制作に勤しみました。理想郷として称えられた「ケルムスコット・マナー」や、モリスが釣りや川下りを楽しんだテムズ河の支流など、様々な場所がインスピレーションとなり、数多くの作品が生み出されました。

本展では、アーツ・アンド・クラフツ運動の先駆者であり、「モダン・デザインの父」と称されるモリスの創作の遍歴を、英国の風景とともに、時代を追って紐解きます。作品と現存する風景を照らし合わせながら、モリスのデザインをめぐる旅へ出かけましょう。

出品作品：

- 約 80点程

会期・会場：

2019年度

- 鶴岡アートフォーラム ... 2019年4月20日(土)～5月26日(日)

<画像>

ウィリアム・モリス

《メドウェイ》

1885年

photo : ©Brain Trust Inc.

ご注意：掲載されている画像・写真・テキストを含むすべてのコンテンツに関する著作権は株式会社ブレイントラストに帰属するか、または使用が許可されており、日本の著作権法および国際条約によって保護されています。特に断り書きのある場合を除き、これらを許可なく利用・複製・再配布・出版することを禁じます。

© 2004-2019, Brain Trust Inc. All rights reserved.